

原子力学会SNW

エネ教育など議論

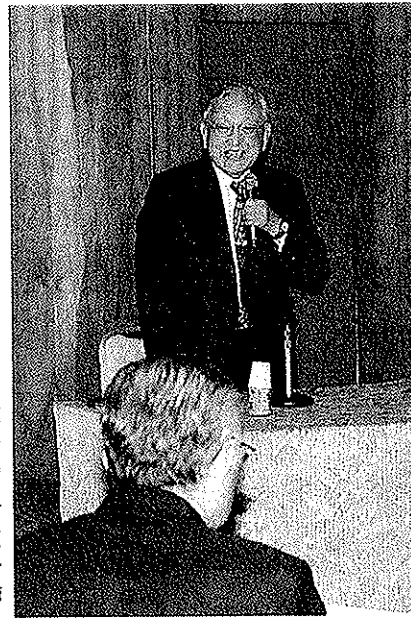
秋元氏 ガイア理論を紹介

日本原子力学会のシニアネットワーク(SNW、竹内哲夫会長)が主催する第3回シンポジウム「岐路に立つエネルギーと地球環境―世代を超えて考える―」が1月31日、東京・神田錦町の学士会館で開かれ、エネルギーや教育関係者など約140人が参加した。日本原子力文化振興財団理事長の秋元勇巳氏が基調講演

したほか、「エネルギー・環境教育を考える」をテーマにしたパネル討論などを行った。

秋元氏は「地球環境ガイア理論と人類の課題」と題して講演。国際的に著名なラブロック博士のガイア理論を紹介しながら、地球環境が自己調節できないほど極めて深刻な状況にあることや、その解決策としては「唯一原子力しかない」ことを説明した。

特に原子力の役割については「プラスの面を再



確認すべき」と述べ、「しかも高速炉時代に進歩を遂げることが条件」と指摘した。

基調講演に続いて、エ

ガイア理論をテーマに講演する秋元氏

ネル討論に移った。壇上には座長のほかに大学関係者や有識者、専門家など5人のパネリストが上がり、会場の参加者を交

え意見を出し合った。冒頭、各パネリストが大学での原子力教育の状況や、小中高や一般を対象にしたエネルギー環境教育の現状などについて報告。それをめぐって会場からは「理科教育振興のための新法の制定に支援をお願いしたい」といった意見や、「現行の型にはまった学習指導要領がエネルギー環境教育の浸透を妨げている要因ではないか」などの質問の聲が上がった。